

県史談会 田代を歩く 上

県史談会では7月11日(日)に田代の史跡めぐりを行いました。担当役員の私は、厚木市や愛川町、津久井、大磯方面から参加した9名の会員を案内しました。その下調べのときや当日新たに知ったことがあります。これらを今月と来月の2回に分けて掲載します。

☆歩き出す前に

集合場所の勝楽寺から歩き出す前に、参加者に田代の予備知識として、つぎの2点を紹介しました。その一つは、琉球大学名誉教授の小島環禮先生が神奈川ふだん記89号(2020年3月発行)に寄稿した「八菅山の伽藍創建時の古伝」にある八菅山宝喜院42世の永寧翁の『愛甲郡地名考』を読み解いたつぎの部分です。

一 田代村は、昔は海底村と1村であった。今は海底は角田に属す。この2村の地は、昔は湖水であった。海底村の崖道の辺りが囲みとなり、その内側の戸倉村、海底村、田代村、平山の4ヶ所の地は、一円が湖水である。おおよそ竪1里、横20丁ばかりである。考えてみるに、昔、行基菩薩が八菅山の伽藍を建立したとき、切り割りして、湖の水を落とし尽して村里とし、田園となった。田代は湖水が田に代ったという、村名である。海底村も千尋の海が変わって村里となった名であると考えられます。

(中略) 今も田代の村の平地の中ほどの残草に、ぽつんと山が一つ、独立峰としてあります。現代では、テンデン山と呼び、「天台山」と書いています。このテンデン山の由来にも触れています。湖の中に少し草が生えて見えたのも、水が引くと、大きな山となった。

それで「残草山」と名付けたのである。

二つ目は、大塚博夫さんに教えていただいた「田代の草分けの13苗字17軒」です。

これは、慶長8年(1603)御縄打の「相州大郡之内上川入之内田代村水帳」に載っているそう、17戸の内訳は、荻田、大矢、高賀(甲賀)、山口、奈良、伊奇(伊從)、小座野(古座野)、斎藤、大貫、古郡、新井、佐藤、花上の13苗字で、このうち、荻田が4戸、大矢が2戸なので都合百姓17戸というものである。

この伝説のような「地名考」と中津川の流路が安定して河岸段丘から河川敷に人々が移住し始めたころの史実とで参加者の好奇心を掻き立て、そのあとで、平山橋・関場坂・上原・上田代・西原・大内出・残草と歩いて地形を体感し、さらに13苗字の家々などの地区にあるのかも確かめました。

☆田代城址

愛川中学校校庭下の道の際の土手に、昭和55年12月に愛川町教育委員会が設置した看板があります。それに、

一 田代城は戦国時代の山城で、自然の地形を利用して防備した武士の居館であった。

築城の年月は不詳。城域主要部は現在の愛川中学校一帯で、23、

300平方メートルほどの広さであったと伝わり、南の方を表口とした。

城主は小田原北条氏の家臣内藤氏で、下野守秀勝とその子三郎兵衛秀行の2代が在城し、田代・半原・小曾郷(海底・隅田(角田)・箕輪・下村・坂本・五坊(北原)・磯部を領地としていた。

永禄12年(1569)10月、武田

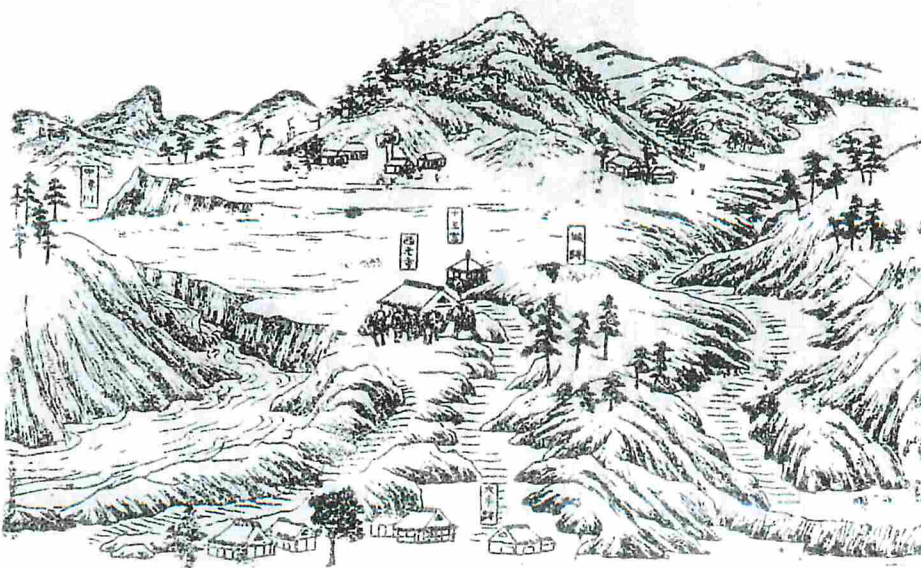
信玄小田原攻めのおりに、この城は落城したと伝えられる。城址には石垣跡と守護神の八幡社があり、仕置場、うまやなど地名を残している。一

甲郡田代村差出」に「十王堂寄ヶ所」との記載があり、また『風土記稿』に「十王堂 勝楽寺持」と載っています。

この田代城址は、江戸幕府が編纂した地誌、天保12年(1841)成立の『新編相模国風土記稿』に「田代古城図」として載っています。☆遺物は勝楽寺の十王堂に

この図の中央に「十王堂」が見えます。その草創の年は不詳ですが、宝永3年(1706)の『愛

田代古城図



その「十王」について、『大辞林』はつぎのように載せています。一 冥土にいて死者を裁く一〇人の王。秦広王・初江王・宋帝王・五官王・閻魔王・变成王・泰山王・平等王・都市王・五道転輪王の総称。死者は初七日から七七日までの各七日、百箇日、一周忌、三回忌にそれぞれの庁をめぐって来世の形態を定められる。中国、唐代末に道教の影響で成立し、平安中期以降日本にも移入された。一

この「十王」に日本では、順に不動明王・釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩・地藏菩薩・弥勒菩薩・阿彌陀如来を対応させ、これに七回忌の阿闍如来、十三回忌の大日如来、三十三回忌の虚空蔵菩薩を加えたのが仏事の掛け軸でお馴染みの十三仏です。

県史談会 田代を歩く 下

7月11日(日)に県史談会で田代の史跡めぐりをしました。その際に知ったことを、8月号と9月号の2回に分けて載せていますが、今回は西谷戸の子安明神についてです。

☆立派なやしろ

私は下見のときに初めてこの子安社を訪れました。

前もって愛川町教育委員会が昭和48年3月に発行した調査報告書『愛川町の小祠・小堂 田代・細野地区』を読んでいたが、そこには、一社祠 木造亜鉛葺き流れ造り 一四五×一七五×二六〇とあるだけでしたので、覆い屋のある見事な造りに驚きました。

そこで私は、名工と評判だった荻田虎十郎さんの地元だから、虎十郎さんが造ったのかもしれないと思いました。

前記調査報告書には、一子安社は、現在西谷戸の中腹に南面して建てられているが、もとは字残草

六二四番地に鎮座していた。明治の初期に中津川の流路を変更した際、いまの地に移されたという。当時そのあたりは旧中津川の川べりで、『子安の森』とよばれていた。

この旧子安社の位置は、裏残草にある奈良工務店の西方にあたる水田の一面で、そこだけ岩盤が露出しているのですね。社地の広さは四〇平方メートルほどで、すぐ前は中津川の深淵であつたといわれる。

俚伝によれば、この子安の森は良弁僧正(奈良東大寺の初代別当で大山寺の開創者・六八九〜七七三)が相模国に巡錫のみぎり、ここに立つて西方を望むと、山脈の

なかに瑞祥がみとめられたので、そこを聖地として今大山不動院清瀧寺の建立を思いつたという所縁の地である」とあります。

そこで良弁は中津川のほとり、田代河原に庵を結び、断食して修行をします。結願の前夜、川の水が大いに増し、濁流が滔々として流木がともも多い中に、幽木と覚しい大木が庵の前で止まりました。これこそ昨夜観音菩薩が意を宣したものであると、その材で日夜怠ることなく彫刻したのが、いまの尊像であるということです。この像は、もとは清瀧寺にあったが、その後、字檜原の観音堂に納まり、(中略) 明治時代の末ごろに堂宇が腐朽したので、清雲寺に移したとあります。

☆運良く情報入手
史跡めぐり当日、田代城址に行つたあと、愛川中学校の校庭下の道を南側に下り、荻田虎十郎さん宅前を通り、この社に来ると、参道で女性が掃除をしていました。

☆西の光で西光寺 清瀧寺の末寺前号に「田城古城図」を載せました。そこに西光寺が見えます。この寺は、『愛川町の寺院 田代地区』により、一古義真言宗、山号は富士居山、本尊は大日如来、本寺は半原村清瀧寺(廃寺)、富士居山にあった浅間大菩薩の別当寺とわかります。さらに同書は、この寺跡は愛中の校庭の南側隅で、そのために道を隔てた南側下の荻田虎十郎さん宅の家の「テラシタ」だったことも教えてくれます。

☆清雲寺の如意輪観音像誕生地
琉球大学名誉教授の小島豊禮先生が郷土の先人の遺稿を元に神奈川ふだん記82号(2016年6月発行)に「子安の森の奇蹟」を載せています。

☆「子安の森」跡に立つ
前出の伊従さんと山口さんと三人で「子安の森」跡に立ちました。そこから西方に塩川方面がよく見えました。そこでお二人に、私が愛中生のときに校舎2階から塩川滝の北側に大雨が降ると現われる滝を見た話をすると、お二人はそれは「シヨッコウダキ(蜀江滝)」だよと即答されました。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

良弁さんもこの「子安の森」から蜀江滝を見たのだろうか。

日野春アルプ美術館に中村好至恵さんの個展を観に行こう

山の絵を描く中村好至恵さんは日野春アルプ美術館での個展を3年毎に開催しています。コロナ禍のため昨年は延期し、今年10月に開催します。

西山を守る会ではこれまで3回鑑賞バスツアーを実施しており、今回も計画しました。しかし、コロナ感染者が急増していますので中止もあります。実施が否かは、9月末までに判断します。

◇期 日 令和3年10月15日(金)
◇集合場所 J A荻野支所前
◇集合時間 午前7時
◇参加費 9,500円
◇募集人数 20名
◇参加資格 会員及び会員推薦者
◇コース J A荻野支所前→相模湖駅→談合坂SA→山梨県立フラワーセンター ハイジの村(秋バラ観

賞と昼食)＝津金学校(明治～昭和にかけての資料展示)＝日野春アルプ美術館＝談合坂SA＝相模湖駅＝J A荻野支所前
◇申し込み 希望者は事務局に申し込み、参加費は当日お支払いください
◇問い合わせ 事務局 荻田印刷
☎ 046-241-8990
◇主 催 西山を守る会

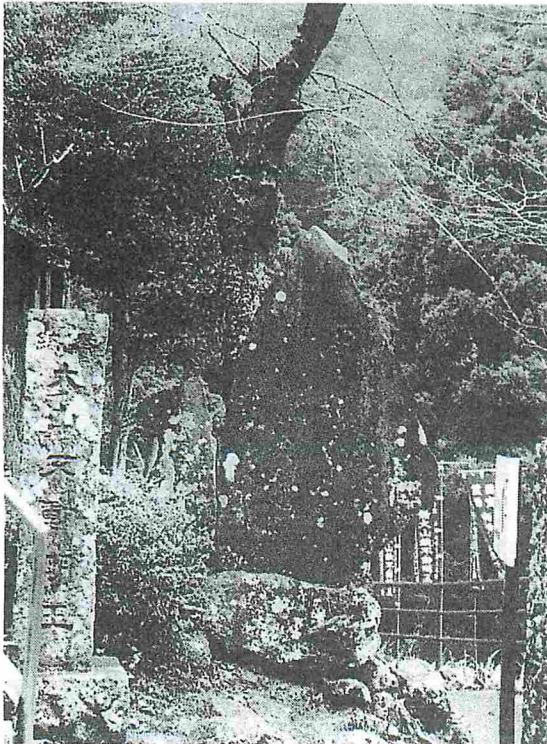
幕末の三舟ー高橋泥舟

半原神社の春祭りにあわせて「幕末の三舟」で有名な山岡鉄舟の愛川町々内に遺る書を四月号で紹介しました。今月号は義兄弟でもある高橋泥舟です。

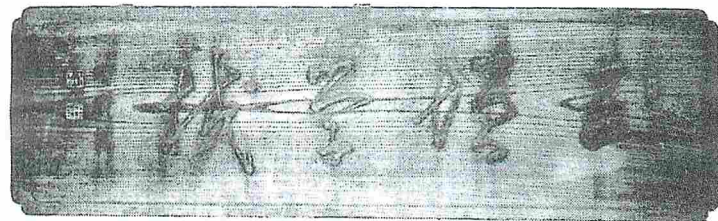
★四月号のつづき

半原の志村利明さんから当紙四月号新聞折込み当日、鉄舟の書がうちにもあるよ」と電話が入りました。後日訪ねて見せて頂きましたところ、横額と大きな掛軸がありました。これらは半原神社の祭旗を揮毫してもらった時に書かれたもので、お礼は樽酒だったと言伝えがあるそうです。どちらにも志村氏への為書きが入っていました。このことから、私は当時の他の神社総代さんも鉄舟に書いてもらっていたらと推測しています。

また、志村家のものに「正四位山岡鉄太郎書」と入っているところが、半原村の矢内稲太郎が寄贈した。また、半原村の矢内稲太郎が寄贈した。また、半原村の矢内稲太郎が寄贈した。



▼愛川町立高峰小学校にある高橋泥舟筆の木板横額、文字は『三増学校』

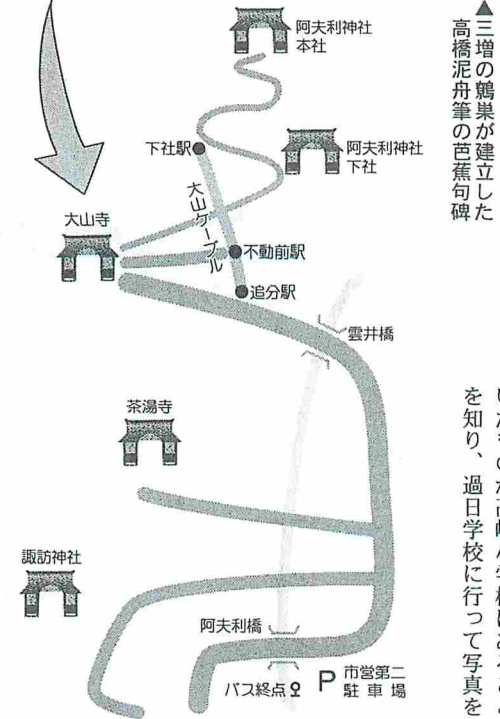


★泥舟の情報も入りました
もう一件、鳶尾の読者から、高橋泥舟のお墓は谷中の大雄寺にあるとの電話が入りました。

その泥舟を知るためにコンサイスの人名辞典を開いてみました。
——高橋泥舟（たかはし していしゅう） 一八三五—一九〇三年（天保六—明治三十六） 幕末・維新期の幕臣。槍術の大家山岡静山の弟、山岡鉄舟は妹英子の夫。名は政見、通称精一。高橋家を継ぎ、二十五歳で講武所師範となり伊勢守に任じた。一八六三年（文久三）新徴組を率いて上洛したこともあったが、時勢を察し、鳥羽伏見の戦後には將軍徳川慶喜に恭順を説き、終始慶喜を警護した。勝海舟・山岡鉄舟とともに「幕末の三舟」と称された。

前号と今号を合わせて読むと、小野家に生れた鉄舟は泥舟の妹を妻にして山岡家を継ぎ、山岡家に生れた泥舟は高橋家を継いでいることがわかります。

★高峰小学校にあります!!
中村昌治さんの著書で泥舟の書いたものが高峰小学校にあることを知り、過日学校に行つて写真を撮る

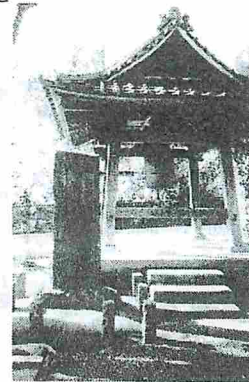


◆当紙は左記のスポンサーの協力により発行されております	造園工事お気軽にご相談を (株) 厚木植木 三田 四一五五九一	ご用命は…… (有) 栗原工業 上荻野 957-5 ☎ 41-1540	家具のワタナベ 半原線子合バス停前 四一三三三	くすりの (有) 厚木ドラッグ荻野店 和光会館よこ四一八九七七	総合エクステリア (有) 協和ホームサービス 津久井町長竹金原工業団地隣 四四二七八四〇六〇六	民間車検場 (有) 原モータース 中津桜台 八五二三五四	きものファッション 秀 (しゅうげい) 美 半原 八二二四六	入母屋造りで定評の 荻田建築 田代平山 八二〇三七八	ガンバリのきく子の学習空間 啓明塾 田代 八二六六七 中津 八二二四〇 入塾随時 八二四八八 杉山緒佐武へ
------------------------------------	---	---	---	---	---	--	--	--	---

ヴェルサイユ展招待券プレゼント!!
 3月30日まで東京都美術館で開催中の入場券
 を当紙読者先着5名様に。 荻田印刷へ
 提供：読売新聞厚木篇尾サービスセンター

おのざわり ゆうきち 小野澤龍吉の墨蹟を捜す!!

荻野小学校玄関に掲げられた「至誠」の扁額は、校庭の樟の大木同様、同窓生共通のシンボルのようなのですが、意外とそれを寄贈した人や筆者の事実は知られていませんでした。寄贈者の森屋太吉さんについては、大まかではありましたが、前号までの三連載で紹介しました。今月からは筆者の小野澤龍吉さんについて調べながら書いてみます。



▲上荻野浅間神社鐘楼再建碑

★生家は棟岩院近く

小野澤龍吉さん調べはまずは身近なところから始めました。小野沢姓は愛川町三増に多いので、当紙広告スポンサーの「きものファッション秀美」の小野沢秀子さんに心当たりがあるかを尋ねてみました。しかし同じ姓でも出自がいくつあるようで、わかりませんでした。

曾祖父の弟さんであることを突き止めました。左の肖像画が座敷に掲げられていましたが、直系の子孫との交流は今では無いとのこと。経歴など詳しいことは「おじいさんが生きていればわかったんですが」とのことでした。

★厚木と愛川をまたぐ特性発揮
 せっかく生家が見つかったのに「ここで途切れさせては」の思いで、一厚木・愛甲の歴史を彩った百人一りのサブタイトルのある『相模人国記』の著者飯田孝さんに手掛かりを求めました。

そこで一月号で呼び掛けましたところ、二月号既報の通り、荻田良子さん情報で、三増四六六の小野澤正さん宅が関係ありそうだとわかりました。

早速訪ねてみました。当主の正さんとお母さんに会い、正さんの「狩野（かんの）の神崎家調査の際、墓石に彼の筆を見た」とことと



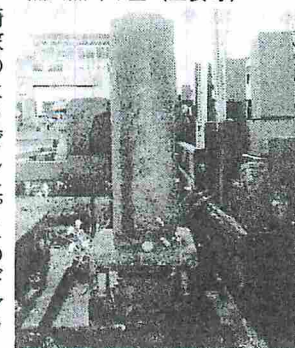
▲小野澤龍吉肖像画
 (1936.3.5 S.SHIZUEのサインあり)

狩野の神崎家の屋敷は、当店からは右正面奥に見え、平山からここに転居して二十六年、毎日眺れています。特にその広大な屋敷森の木々は春の芽吹きや秋の紅葉を楽しませてくれます。現当主の正陳さんは他所にお住まいで、今屋敷の管理をしているのは用野の神崎功さんと聞いていましたので、その入り口近くのお宅を訪ねました。功さんとは以前荻野神社役員で一緒に住んでいたことがあり、事情を話して住所を教えていただきました。

「自由民権運動の黒田黙耳と佐伯十三郎の墓石の碑文も彼のもの」と教えていただきました。これだけわかれれば次の展開に十分な情報です。ちなみに、飯田さんは、龍吉さんを上荻野出身と思われていたようですので、情報のパートナー（物々交換）ができました。

★上荻野狩野の神崎家

▼黒田黙耳の墓（宝安寺）



そして早速神崎正陳さんに手紙を出しました。後日電話をいただき、荻野に来た折に会う約束ができました。

余談ですが、館山に当紙のイベント場を造ることを夢見ている私は、参考になりそうなところに出かけてはいろいろな情報を収集しています。五年前、戸塚区小雀の山の上ギヤラリー（鎌倉の酒屋を移築）に出かけた時、その設計者に会うことができ、彼と話していると「お宅の近くでしよう、茅葺きの民家に行ったことがありますが」と言っていたのがどうやら神

宮木薫画「立ち雛」
 お孫さんのお祝いに、春を呼ぶインテリアにいかがでしょうか。
 色紙・額入り 15,000円
 荻田印刷にて展示即売中!!

民間車検場
(有)原モータース
 中津桜台 285-1135 四
 きものファッション
 秀（しゅうび）美
 半原 281-1124 六
 小野沢 秀子

はんこV承ります
ゴム印
 荻田印刷

ガンパリのきく子の学習空間
啓明塾
 田代 281-166 一七
 中津 285-114 四〇
 入塾随時 281-448 一 杉山緒佐氏へ

◆当紙はスポンサーのご協力により発行しています
桐箆 修理塗替承ります
 総合家具のワタナベ
 下荻野子合バス停前 241-113 三一
 入母屋造りで定評の
荻田建築
 田代平山 281-103 七八
 土木工事・解体工事
 足場工事・基礎工事
 外堀工事・ブロック工事
 ご用命は……
(有)栗原工業
 上荻野957-5
241-1540